



GOBIERNO DE
MÉXICO

RELACIONES
EXTERIORES

SECRETARÍA DE RELACIONES EXTERIORES



ヘスス・セアデ・クリ
世界貿易機関(WTO)
事務局長
立候補に関する資料

世界貿易機関(WTO)の将来にとって必要な立候補

ヘスス・セアデ・クリは貿易案件における高官レベルでの交渉者およびファシリテーターとして豊かな経験を有し、また、世界すべての方面において幅広い経歴・交友関係があります。セアデ氏はその経験や知識からグローバルな人材であり、メキシコ政府は、すべての国々のために任務を負い、重要な局面にあるWTOを主導する理想的な対話者としてセアデ氏を候補者に指名いたしました。

大使の称号を持つセアデ氏は幅広い経歴の持ち主で、GATTや今回立候補している世界貿易機関(WTO)などの第一線の多角的貿易機関での業務経験があります。セアデ氏はWTO設立の経緯、その目的を熟知しています。GATT担当大使を務めた際、ウルグアイラウンドの中心的役割、つまり、一連のWTO設立のための交渉を担いました。主幹交渉者を務めたのち、各国間のコンセンサスにより、困難な交渉の完結を達成したチームとなった事務局次席を任されることになり、新体制に移行してからも同職を務めました。これら3つの任務を遂行したことにより、セアデ氏には世界規模の貿易合意を達成するための比類のない経験の蓄積があると言えます。セアデ氏が世界銀行や国際通貨基金の高官をも務めたことで、各国の苦境および挑戦に関する知識が増強されるに至りました。

近年、セアデ氏は米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)の首席交渉官を務めました。非常に複雑な状況下で、米国およびカナダ政府と合意を取りまとめることに成功しました。このような特異な状況で、セアデ氏は直接橋渡しをすることで貢献しました。必要なコンセンサスを生み出すには政治的勢力の間でこの橋渡しが必要不可欠でした。セアデ氏は3カ国間の貿易に関して、対立する経済的勢力や政治的視点を統一するのに成功しました。政治・企業・労働・組合、それぞれの分野でのさまざまな要因において、共通の立場に立ち、利益のある状況に持ち込むことができました。

米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)は近代的で進歩的な合意であり、その成功は相当な割合で、ヘスス・セアデ氏の紛争解決メカニズムを修復する経験に基づいています。この紛争解決メカニズムは旧NAFTA体制下では決して機能することはなく、良い貿易協定では必ず礎石の役割を果

たしているものです。USMCA交渉は、明らかなルールとすべての国の利益に基づいたコンセンサスを生み出しながら、強大な先進国に対して中規模の国の関心を擁護する、同氏の能力を証明する場となりました。

セアデ氏の多角的機関での経歴のほかに、中国、米国、英国、フランス、メキシコの学術分野における参画についても言及すべきでしょう。アフリカ、中東、ラテンアメリカ諸国に対する財政および貿易分野での幅広い協力も忘れてはなりません。セアデ氏の広範囲にわたる職務経歴は、結果的に、現在の国際システムの困難な課題に関する深い知識の糧となっています。

職務経歴

1989年～1993年

GATT担当メキシコ大使およびWTO創設のためのメキシコ首席交渉官。セアデ氏のリーダーシップにより、メキシコはコンセンサス醸成者として、その地位を確立することにつながりました。

1994年～1998年

GATT事務局次席(1993年～1994年)として、3年間膠着状態にあった交渉の救済に参加し、アフリカ、アジア、カリブ地域の49か国の後発開発途上国ための再交渉を主導し、成功に導きました。WTO創設時の事務局次席(1995年～1998年)を務め、IMFとの貿易・財政協力での緊密化、全加盟国の政府・立法・企業部門の支援業務、加盟国への分析・統計業務の改善などの主要案件を主導しました。

1998年～2006年

国際通貨基金の上級顧問としての経験により、アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、中東などの地域の困難な課題においてさらに精通することになりました。1998年～2001年は財政危機に瀕していた3か国—ブラジル、アルゼンチン、トルコ—支援のIMFの政策責任者を務めました。15のアフリカ諸国への債務免除(重債務貧困国HIPCイニシアチブ)も担当しました。2001年～2006年、組織の透明性に関する業務、アフリカ、中東、アジア、ラテンアメリカにおける技術協力(税関・貿易分野を含む)各種プログラムの責任者を務めました。

2007年～2016年

アジア太平洋地域の経済勢力の直接理解当事者。香港・嶺南大学副学長兼経済学部主任教授。金融省および通商産業省の首席顧問を兼任し、現在、香港地域の貿易・財務システム専門家。

2017年～2018年

学術分野での活躍により、中華人民共和国の科学技術の中心地、深圳にある香港中文大学深圳校 国際関係担当副学長に任命されました。

2018年～現在

メキシコ外務省北米担当次官。米国・メキシコ・カナダ協定 (USMCA) 首席交渉官。貿易において相反する世界的または地域的状況においても、解決策を見し、双方に利益のあるかたちでコンセンサスを生み出す能力が高く評価されています。

学歴

- 化学技師 (栄誉ある特記事項つき)、メキシコ国立自治大学 (UNAM)
- 経済学修士および経済学博士、英国・オックスフォード大学
- WTOの公用語3か国語 (スペイン語・英語・フランス語) に加え、ポルトガル語を流暢に話す。会話レベルのドイツ語。北京語初中級。

多角的システムとWTO

世界貿易機関 (WTO) は世界経済を統制する仕組みとして基本的な柱の一つであり、その前身であるGATTは三四半世紀に渡り世界貿易・経済発展の中心基盤でした。多角的貿易システムの要であり、困難な傾向が強まる状況下で世界貿易の確実性を高めるには、WTOの適切な機能が不可欠です。

パンデミック下におけるグローバルな課題と経済回復に取り組むには、活性化され確固とした、包括的かつ機能的なWTOが必要です。これは、建設的かつ重要なグローバル



交渉において実証された経験を持ち合わせるリーダーシップにより支えられた加盟国全体の意志があつてこそ成し得るものです。

WTOは現状において3つの重要な課題に直面しています。

交渉において大きな進展が達成されていないこと、上訴機関の機能停止、現行協定の管理を早急に近代化する必要があることから、WTOの権威を再確認すること。

漁業や農業といった貿易交渉の慣例議題の推進、電子商取引の完全な包含と野心的でありながら持続可能なビジョンの発展とともに21世紀の経済テーマを活発化させること。紛争解決機能の理解を再度明確にし、加盟国の権利と義務の遵守をより適切にフォローアップできるメカニズムを創設することが必要とされています。

直近の課題としては、パンデミックによる経済影響の軽減に寄与すること。このためには、WTOは加盟国に対し、グローバルレベルで公衆衛生を保つためのあらゆる対策に留意しながら、物流に影響する行動を制限または回避し、経済活動の回復につながる対策を講じるよう促さなければなりません。

適正と経験:WTOに適した主導力

メキシコ政府は、3つの主な理由から、セアデ氏のグローバルな経歴、経験、能力が、前述のWTOの責務を担う理想的な人材像と一致していると考えます。



メキシコの立候補

メキシコは長きにわたり、国際的多角的システムに頼ってきました。ヘスス・セアデ氏の立候補は、この多角的主義の信念を支持するものであり、多角的主義は加盟する国々すべてに反映されています。メキシコは国際連合安全保障理事会の非常任理事国ならびに経済社会理事会の理事国に選出されました。現在、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体 (CELAC) の議長を務めています。また、メキシコは自由貿易とアジア環太平洋地域の経済に緊密につながる国際協力に端を発した地域イニシアチブ、太平洋同盟の加盟国でもあります。

また、メキシコはG20、APEC、経済協力開発機関であるMIKTAといった最高レベルの国際フォーラムに積極的に関わっており、また、WTO創設メンバーでもあります。

メキシコはこれまで50ヶ国以上と自由貿易協定を結んでおり、生産活動とグローバルなつながりにおいて多様性に富んだ経済力を有しており、複合的な貿易部門と強力な輸出部門を兼ね備えています。

このような視点の下、メキシコはヘスス・セアデ氏の立候補を表明します。極めてグローバルな人材であり、その経験と適正は、強力で包括的、開放的で時代の潮流を意識した多角的貿易システムを確立することに役立つでしょう。またセアデ氏自身にとっても、WTO全加盟国と再度力を合わせることは、きっと大きな名誉となることでしょう。

日本国内での連絡先

在日メキシコ大使館

〒100-0014
東京都千代田区永田町2-15-1

電話：03-3581-1131 (代表)
メール：infojpn@sre.gob.mx

1. WTOに関する知識。ヘスス・セアデ氏はWTO創設時の複雑な交渉で重要な役割を担いました。当初の構想からWTOに関する深い理解を養い、すべての人にとって有効な解決策ファシリテーター、事務局次席を務めました。WTOの枠組みのもと、世界貿易緊張の交渉ならびに解決に携わった素晴らしい経験を持ち合わせています。
2. 上級交渉官、コンセンサス・ファシリテーター。加盟国が事務局長に求めるのは、分野に精通した専門知識、強力な政治的リーダーシップ、特に解決に辿り着くための実証された創造的思考と能力だと思われます。セアデ氏はこれらの要件を満たしています。
3. 比類のない対話能力。ヘスス・セアデ氏はアフリカ、中南米、中東からヨーロッパ、アジア、北米に至るまで、WTOを構成する国々と深く関わりを持っており、仕事のみならず、友人として、さらには家族も交えた深く長い関係を築いてきました。中華人民共和国での仕事が米国・カナダとの貿易交渉参加へとつながり、ヨーロッパで教授ならびに上級交渉官として長期滞在した経験が、世界を取り巻く環境への独自の理解を培う機会となりました。